



ショートコメント

★★★★

Data 2025-103

フランケンシュタイン (Frankenstein)

2025年/アメリカ映画
配給: Netflix/149分

2025 (令和7) 年11月1日鑑賞

テアトル梅田

監督・脚本: ギレルモ・デル・トロ
原作: メアリー・シェリー
出演: オスカー・アイザック
/ ジェイコブ・エロル
ディ/ミア・ゴス/ク
リストフ・ヴァルツ/
ラース・ミケルセン

みどころ

「オッペンハイマー」は原爆を発明した科学者として有名だが、「フランケンシュタイン」の実像を知っている人は少ない。彼は19世紀の優秀な科学者(外科医)だが、彼が生み出した怪物の名をフランケンシュタインと誤解している人が多いのでは・・・？

それはともかく、「異物として憎まれる怪物を子供の頃から自分に重ねていた」というスペインの巨匠ギレルモ・デル・トロが吸血鬼や半魚人の映画に続いて、念願の怪物とその創造主たる天才外科医・フランケンシュタインを主人公にした149分の大作を完成！

秦の始皇帝は「中華統一」後、不老不死の薬を求めて国内を走り回ったが、外科医フランケンシュタインが多くの死体のパーツを組み合わせて命を与えた“怪物”は、逆に死ぬことができない責め苦に！そのため、この怪物は創造主を探し求めて「俺を殺してくれ！」と懇願し続けたが・・・。

人間は誰もが日々の平凡な日常生活を送ることができれば幸せな動物だが、たまにはこんな“映画”で刺激を受けたい。その“刺激”の影響をどうコントロールするかは各自の責任だが・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆フランケンシュタインと言えば、誰でもよく知っている怪物の名前だが、私を含めてその実態を知っている人は少ないはずだ。原爆を世界で初めて開発し、実用化した人物がアメリカの科学者オッペンハイマーであることは、『オッペンハイマー』(23年)『シネマ55』18頁)で有名になったが、何を隠そう、フランケンシュタインとは怪物の名前ではなく、兵士の死体を材料として“ある怪物”を作り出した科学者(外科医)の名前だ。

◆本作は2025年11/7のNetflixでの独占配信開始前の10/24から一部劇場で公開されることになったもの。そして、本作を監督したのは、『シェイプ・オブ・ウォーター』(17

年)、『シネマ 41』10 頁)、『パンズ・ラビリンス』(06 年)、『シネマ 16』392 頁) 等々有名なメキシコの鬼才ギレルモ・デル・トロだ。

彼は「異物として憎まれる怪物を、子供の時から自分に重ねていた」そうで、7 歳の時、ボリス・カーロフが怪物を演じた映画『フランケンシュタイン』の虜になったそうだ。また、「人ならざる者」への愛を創作の原動力とする彼は、吸血鬼や半魚人の映画を撮り、2022 年には Netflix で人形アニメ『ギレルモ・デル・トロのピノッキオ』(21 年)、『シネマ 52』46 頁) を発表。そして、子どもの頃にスーパー8 ミリフィルムで初めて映画を撮って以来、本作でやっと「フランケンシュタイン」の映画を作る夢を実現させたからすごい。

◆日本の浦賀沖にペリー率いるアメリカの黒船艦隊が来航したのは 1853 年。そこから幕末と維新の激動が始まったわけだが、本作冒頭の時代はそれより少し前。北極点を目指すアンダーソン船長(ラース・ミケルセン)の帆船が厚い氷に阻まれて立ち往生するシーンから始まるが、これはメアリー・シェリーが書いた原作『フランケンシュタイン』に沿った描写らしい。「航海モノ」、「船長モノ」といえば、ハーマン・メルヴィルの『白鯨』が有名だが、『白鯨』のエイハブ船長と同じように、超頑固老人らしいアンダーソン船長は、撤退を勧める部下たちを叱り飛ばして、「あくまで前進！」と号令！しかし、立ち往生の現場から約 2km 先に光が見えたため、そこに急行してみると・・・？

◆2025 年の日本列島の夏は異常な高温が続いたが、それが地球温暖化の警鐘なのか否かはよくわかっていない。他方、近時の北海道・東北では、冬眠しない熊の市街地への出没が社会問題になっている。それと同じように、怪物も冬眠してくれると安全だが、どうやら本作冒頭を見ると、怪物が北極点付近に登場し、「自分の創造主」である外科医のヴィクター・フランケンシュタインを追い回しているらしい。導入部のストーリー展開を見ていると少しずつそのことが分かってくるので、それに注目！

スクリーンを観ていると本作に登場している「怪物」は銃に当たっても死なないし、馬鹿力を発揮すれば船を横転させることすらできるようだから怖い。もともと、この怪物は誰彼ともなく人的被害を加えることはなく、年老いた外科医ヴィクター・フランケンシュタインの身柄確保だけが目的らしい。しかし、それは一体何のため？

スクリーン上は、北極点付近を舞台としたそんな氷上の世界から一転し、幼い頃の大きなお屋敷に住む著名な外科医の父の下で幼いヴィクター・フランケンシュタインが育てられていくストーリーになるので、そこからは、ビクターが父の後を継ぎ 2 代目の優秀な外科医になるまでの姿をじっくりと。

◆本作中盤は、優秀な外科医である父親の厳格な教育下で苦しみながらもヴィクターが優秀な外科医に成長していく姿が描かれる。しかしそこでは、幼い時に愛する母親を失った

ことや、父親が再婚した妻との間に生まれた腹違いの弟ウィリアム・フランケンシュタインを溺愛することによって、ヴィクターが、優秀だが世間に反発する自己中心的な外科医に成長していく姿が顕著なので、それに注目！

考えてみれば、手塚治虫が『ブラックジャック』で生み出した天才外科医たる「お茶の水博士」の評価も難しかったが、本作に見る外科医ヴィクター・フランケンシュタインの評価も難しい。そんなヴィクターは、財政面での弟からの援助もあって、巨大な研究施設の中に数多くの兵士の死体を集め、それを切り刻み、そのパーツをつなぎ合わせるという恐ろしい実験によって、ある日遂に“ある怪物”に魂を吹き込むことに大成功！

◆本作の主人公はあくまでヴィクター・フランケンシュタインと彼の創造物たる怪物の2人だが、その怪物の誕生物語にはヴィクターの異母弟たるウィリアム・フランケンシュタイン（フィリックス・カメラー）の他、彼の婚約者となる一風変わった美女エリザベス・ラヴェンザ（ミア・ゴス）が登場するので、それに注目！

ヴィクター・フランケンシュタインが時代の最先端に行く優秀な外科医なら、女性差別の強い19世紀にあって、エリザベスほど自由な発想で世の中や男女関係を見通した女性は珍しい。そんなエリザベスはウィリアムの婚約者になる中でヴィクターとの接点生まれ、それが増大していく中、まるで幕末時代の坂本龍馬とお竜のような2人の“恋物語”（？）が展開していくので、それにも注目！もっとも、“怪物誕生秘話”が明かされ、怪物の教育にヴィクターが疲れ果て、絶望し、遂に研究施設ごと怪物の抹殺を決意すると、業火に焼かれる塔の中ではエリザベスの死亡という悲劇が！これは一体なぜ…

◆紀元前200年頃、秦の始皇帝は念願の中華統一を成し遂げた後に、不老長寿・不老不死の薬を求めて中国全土を走り回ったが、それは無理だった。しかし、始皇帝の死亡から約2000年を経た今、習近平国家主席は「不老不死は無理でも150歳までは元気で主席の座を続けられる」と考えているとの説がまことしやかに伝えられているが、さて…。

そんな始皇帝の例によらずとも、人間なら誰しも長生きをしたいし、不老長寿を望むものだが、ヴィクター・フランケンシュタインによって創造された怪物は逆に死ぬことができない責め苦をずっと背負って生き続けているらしい。つまり、この怪物はヴィクター・フランケンシュタインによるあの実験室（塔）の大爆発の中でもしぶとく生き残ったのだから、銃に撃たれたくらいでは死ぬことはありえないらしい。

しかして本作のラストに向けては、なぜこの怪物がヴィクター・フランケンシュタインを追い回しているのか、そして怪物がヴィクター・フランケンシュタインとのそんな因縁をどのように断ち切ってヴィクター・フランケンシュタインが安らかに死ぬことができるのかという興味深いストーリーが綴られていくので、それをじっくり、味わいたい。

2025（令和7）年11月8日記